



# 全社技術発表会 バーチャル展示会 2023の開催

橋 本 有 奈

## 1 はじめに

2023年12月にカヤバ社内で「全社技術発表会 バーチャル展示会 2023」を開催した。

新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）の流行により従来の会場で開催する展示会から形を変えたWeb上での展示会である。107テーマのエントリーがあり、とても見応えがある展示会となった。

今回はそのバーチャル展示会の経緯から効果について紹介する。

## 2 会場での展示会からバーチャル展示会へ

### 2.1 全社技術発表会

当社では毎年全社技術発表会を技術の水平展開、情報共有および開発意欲の高揚を図るために開催している。生産技術、油圧エレクトロニクス、自動車の3分野の発表会（ブロック発表会）にて選考を行い、各発表会の上位2テーマを全社技術発表会で披露している。

### 2.2 展示会

コロナ禍以前、展示会は各ブロック発表会と同日に併催していた。技術者自らがエントリーし、研究・開発結果をまとめたパネルと、研究・開発の実物を展示して技術者同士で情報共有をしたり、来場者へ技術のアピールを行っている。毎年各ブロックで約100テーマ近く展示のエントリーがある。

展示会の最大のメリットは各展示ブースにて技術者がアテンドしているため、技術者から研究・開発の説明を生で聞くことができることである。また、普段は研究・開発品を見ることができないため、発表を聴くだけではイメージしきれない製品の特長などを実展示により確認することができる。アテンドする側も来訪の当社役員や他部門の部課長との意見交換やリアクションがもらえることにモチベーションを感じているようである。

毎回展示会場の通路には人があふれ、移動が困難

になるほど大盛況であった（写真1）。しかし、2020年冬にCOVID-19が流行し、社内のイベントは開催制限がかかり、全社技術発表会も規模を縮小しての開催となり、三密となる会場での展示会は中止となった。

### 2.3 展示会の復活

2020年度から2022年度の3年間、展示会が中止された中、日頃の研究・開発の成果を共有・披露する場を復活させたいという声があった。COVID-19が第五類に分類されたので展示会の再開を検討したが、再び感染者が増えている時期だったため、以前のような三密になる会場での展示会ではリスクが伴うため断念した。また、これまでの展示会は会場を各開発拠点で順番に開催していたので、展示を見るためには他拠点への移動が必須であり、更に開催日が1日だけなので業務上の理由などにより会場に行くことができなくなってしまうこともあった。そこで、環境さえ整っていれば社内のだれでも閲覧することができるWeb上での展示会を検討し、2023年度は「全社技術発表会 バーチャル展示会 2023」と題し、開催することにした。



写真1 展示会場の様子

### 3 バーチャル展示サイトの作成

バーチャル展示会の開催決定から開催まで準備期間は4ヶ月しかなく、社員全員がアクセスでき、かつ短期間で準備できる方法を検討した。

#### 3.1 使用ツール

展示内容を公開する方法として、全社展開されているMicrosoft365<sup>®</sup>のSharePoint<sup>®</sup>を使用してサイトを作成した。Web制作会社にサイト作成を依頼する案もあったが、費用や作成時間、出来栄をSharePoint<sup>®</sup>と比較した結果、SharePoint<sup>®</sup>で作成するメリットの方が多いため、採用した。

SharePoint<sup>®</sup>はWebベースの情報共有ツールである。ファイルやスケジュールの共有、コミュニケーションを簡単に行うことができ、容易にWebサイトを作成することができる。Webサイト作成では一般的なWeb構成や機能を使用することができるが、自由に設定できることが限られているのが難点である。しかし、Webソースコード<sup>注1)</sup>の知識がなくても短期間でかつ費用を抑えてWebサイトを作成することができる。

注1) Webサイトを構築するためのプログラミング言語。HTMLやCSSなどがある。

#### 3.2 世間のバーチャル展示サイト

まずは世間の動向を把握するため、各イベントのバーチャル展示サイトを訪問した。COVID-19が流行していたため、バーチャル展示を行っている団体は多数あり、動画による製品説明を行っているもの、あらゆる方向から撮影した製品の画像を公開しているもの、展示アバター<sup>注2)</sup>が製品の説明をしてくれるものがあった。なかには閲覧者がアバターとなり、3D空間を移動してその場にいるかのように展示物を閲覧できる展示もあり印象的であった。

展示会は私の中で“現地に見に行くもの”というイメージが強かったが、現地に足を運ぶ手間が省け、短時間で多くの展示を見られるというメリットを感じることができ、バーチャル展示のマイナスなイメージを払拭することができた。また、バーチャル空間で製品の概要を知り、気になった製品については個別にアポイントをとり現地に足を運ぶスタイルも良いと思った。

注2) デジタル空間におけるユーザの代理となるキャラクター。

#### 3.3 バーチャル展示サイトの構成検討

SharePoint<sup>®</sup>で利用できる機能が限られている中でも、従来の展示パネルを使った展示の印象を崩さず、かつテーマの特徴を表現しやすい構成を検討した(図1)。また、従来の内容に追加して研究・開

発品紹介の動画、関連画像の掲載(数の制限なし)、リンク(各部署でサイトを公開している場合)も追加できるようにした。そして、閲覧者とのコミュニケーション方法として、SharePoint<sup>®</sup>の“コメント”と“いいね”機能を使用することとした(図2)。

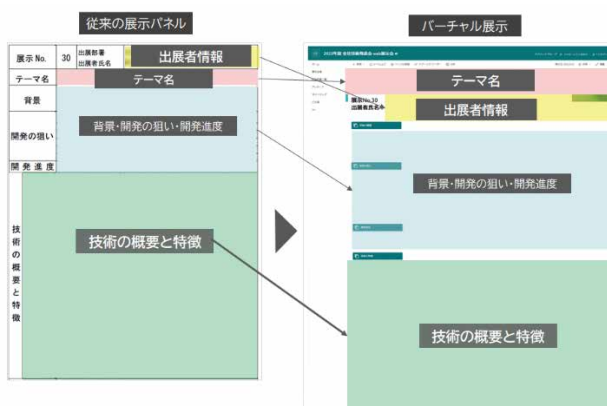


図1 従来の展示パネルとバーチャル展示の比較



図2 追加内容

#### 3.4 バーチャル展示サイトの作成

メインページは試行錯誤した結果、少しでもバーチャル空間に近付けたかったため、SharePoint<sup>®</sup>スペース<sup>注3)</sup>を使用して3D環境を作成した(図3、4)。また、各テーマの展示へは部門毎にカテゴリ分けを行い、そこから移動できるようにした(図4)。

エントリーがあった107テーマは、研究・開発内容をアピールするための動画や画像が盛沢山で展示者の個性が出ており、編集の期限が迫っているにも関わらず見入ってしまうほど、とても充実した内容の展示であった。

注3) SharePoint<sup>®</sup>の機能。3DオブジェクトのWebパーツ、360°画像、2Dの画像、テキストなどを同じ空間に配置することが可能。



図3 バーチャル展示会サイトメインページ①



図4 バーチャル展示会サイトメインページ②

#### 4 バーチャル展示サイトの公開

展示ページの作成、事務局の編集・確認作業が終了し、バーチャル展示サイトが完成。社内で展示会の啓蒙活動をするためにポスターを作成して周知し（図5）、2023年12月13日に「全社技術発表会 バーチャル展示会 2023」を公開した。

Webサイトの閲覧期間は特に定めていないが（現在も社内の方であれば閲覧可能）、出展のいいね数やチャットでのコミュニケーションのやり取りは約2週間の12月28日まで公開した。

総閲覧者数は591名、期間累計アクセス数は5,557であった。



図5 バーチャル展示会 啓蒙ポスター

#### 5 アンケートの実施

次回開催時の改善項目を洗い出すためにアンケートを実施し、展示者111人に対し、87名から回答をいただいた。アンケート結果の一部を紹介する。

展示者の意欲を調査するため、今回のバーチャル展示会にエントリーした理由を質問した（図6）。上司の指示でエントリーした方が多かったが、自身の研究や開発を積極的にアピールしたい方の数も多かった。

バーチャル展示にエントリーした理由を教えてください  
（複数回答可）

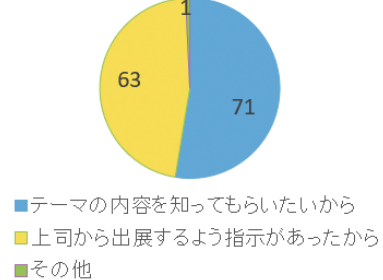


図6 アンケート結果（エントリー理由）

来年度開催する場合の人数把握のため、来年度もエントリーしたいかを質問した。また、その理由も質問した（図7）。約半数の方が来年度もエントリーしたいと回答があった。その理由は下記の通り。

- ・面白い体験ができた
- ・他部署の取組み内容がいつでも見ることができたので時間をかけて展示を読むことができた
- ・技術のアピールにつながる
- ・本年度くらいの自由度を維持して制限、制約を付けないで開催してほしい

来年度もバーチャル展示があったら  
エントリーしたいですか？

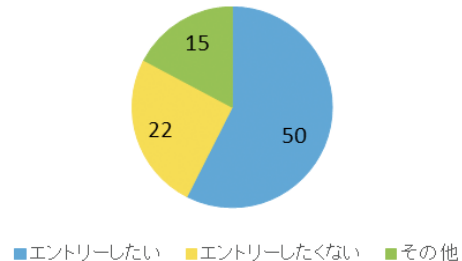


図7 アンケート結果（来年度のエントリー）

エントリーしたくない理由やその他改善点としては下記の通り。

- ・作成に工数がかかる
- ・展示会開催の宣伝をもう少し行ってほしい
- ・展示賞を用意してほしい



・閲覧者ともっとコミュニケーションをとりたい  
今回の展示会では“いいね”機能を活用する方が少なかった。啓蒙不足もあるが、閲覧者が押したくなる仕掛け作りも必要だと感じた。また、展示物を頑張って作成したが、閲覧者からのフィードバックをあまり得られず、モチベーションがなくなってしまった方もいた。次回の最大の課題として、“展示者と閲覧者の双方向のコミュニケーション”が挙げられる。

改善意見を多く収集することができたが、好意的意見も聞くことができた。「いつでも見ることができるので、会場での展示よりもじっくりと時間をかけてみることもできた」、「自部門業務への展開をイメージすることができた」、「情報発信の参考になりそう」などといった嬉しい意見を聞くことができた。好意的意見を励みにしたいと思う。

## 6 次回のバーチャル展示について

2023年度のアンケート結果を踏まえて2024年度は展示者のモチベーションを上げることをテーマとし、

「展示会をきっかけに新たな製品のアイデアが浮かんだ」、「技術者同士の交流が盛んになった」という声がアンケートで聞けるような内容での開催を企画中である。

## 7 おわりに

Webでの展示会は当社初の試みであり、準備から公開まで慌ただしかったが、展示者をはじめとする多くの方々の協力や支援により公開することができた。

展示会期間終了後のアクセスを確認すると、1カ月に約130人前後の人がサイトに訪れており、情報共有の場として活用されていることを嬉しく思う。これからも研究・開発者が新しい発見や自開発に活用できる情報を得られるような活動の企画を継続していきたい。

## 著 者



橋本 有奈

2013年入社。  
技術本部 技術企画部。  
電気/電子開発プロセスの構築および技術管理の業務に従事。